

開催概要

- 日時：令和6年5月27日（月）13:30～15:00
- 対面開催（WEB併用）

議事内容

- 規約改正
- 流域治水プロジェクト2.0について
- 流域治水の令和5年度における具体的な取組内容の共有
- 水防災意識社会再構築ビジョンに基づく5カ年の取組のフォローアップ
- 令和6年度自分事化に向けた取組計画

議事概要

○流域治水プロジェクト2.0について

- ・今年3月に策定した流域治水プロジェクト2.0の策定・公表をしたため、再確認。
- ・気候変動による降雨増加後の河川整備計画規模の洪水（H16.8洪水）が発生した場合、小丸川流域で浸水世帯が現況の約1.7倍（約5,600世帯）になる。
- ・小丸川流域治水プロジェクトにおいて、H16.8洪水が発生した場合でも、現行の治水安全度を確保し、洪水を安全に流下させるため、流域市町村が一体となり、「氾濫を防ぐ・減らす」「被害対象を減らす」「被害の軽減・早期復旧・復興」の対策を進めるとともにグリーンインフラにも取り組む。

○流域治水の令和5年度における具体的な取組内容の共有（代表事例報告）

【宮崎河川国道事務所】

- ・高鍋町では、「小丸川宮越地区総合内水対策計画（令和2年3月）」を策定し、この計画に基づき対策を実施中。今後の気候変動による降雨増に対応するべく、更なる流域治水の検討を進めて行く。
- ・流域治水の取組を流域住民の皆様と一緒に考えることを目的にシンポジウムを開催。令和5年度は都城市で2回開催。今年度、6月1日宮崎市で開催予定。国・県・市の庁舎に雨水貯留タンクを試行的に設置。今年度は高鍋町内の高鍋出張所にも設置。
- ・県や市町村職員に対し流域治水の勉強会を開催。今後も勉強会を開催するとともに、要請があれば各自治体に出向いた開催も検討。
- ・宮崎県防災士ネットワークと連携し共同で出前講座を実施。

【林野庁西都児湯森林管理署】

- ・山地災害や洪水被害が激甚化している中、これまでも関係機関と連携した流木対策や氾濫河川上流域を対象とした森林整備・治山対策に取り組んでいる。森林の有する土砂流出防止や水源涵養機能等の適切な発揮に向け、流域治水の取組とも連携し治山対策等を推進。管内一ツ瀬水系に係る国有林においても、豪雨等に伴う土砂や倒木等の流出抑制や保水機能の維持を図るなど、計画的な森林の保全・整備を推進。



議事概要

○ 流域治水の令和5年度における具体的な取組内容の共有（代表事例報告）

【宮崎県】

- ・土砂堆積等による流下阻害で洪水氾濫が生じないよう、樹木伐採や河道掘削を実施。次年度以降も、他の河川も含め5か年加速化対策において引き続き実施。
- ・土砂や流木の流出による災害から、人命等を守ることを目的として、人家等の上流に砂防堰堤を整備。
- ・河川上流域（民有林）における防災・保水機能を発揮させる森林整備・治山対策（再造林、保育(下刈り、間伐等)、治山ダム、山腹工等)の実施。
- ・近年の集中豪雨による浸水・洪水災害の頻発化を踏まえ、流域治水対策として有効な「田んぼダム」(貯留機能)の取組を促進。
- ・土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実化。令和6年3月末時点で、土砂災害警戒区域を273箇所、土砂災害特別警戒区域を234箇所を指定（高鍋町、木城町、川南町）。指定箇所は、県HPで公表するとともに、市町村に情報提供を行い、ハザードマップへの反映を依頼。

【高鍋町】

- ・宮越地区において、国・県・町が相互に連携して「小丸川宮越地区総合内水対策計画（令和2年3月）」を策定し、ハード（国土交通省による宮越排水機場の整備）・ソフト（災害危険等区域の設定（排水機場付近））一体となった浸水被害軽減対策を実施。

【森林整備センター】

- ・公益機能の高度発揮を図るため、民有保安林、所有者の自助努力等によって適正な森林が整備できない地域について、針広混交林等の森林を整備。水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進。小丸川流域における水源林造成事業地は、約260箇所（森林面積約3,700ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施。

○ 水防災意識社会再構築ビジョンに基づく新たな5カ年の取組のフォローアップ（代表事例報告）

【宮崎河川国道事務所】

- ・教員を目指す学生（宮崎大学・宮崎公立大学・宮崎国際大学）を対象に出前講座を実施。
- ・高校生に向けて防災教育を実施。
- ・MRTラジオ×エフエム宮崎の2局合同防災ラジオで国の防災に関する取り組みについて発信。
- ・前線に伴う大雨や台風第6号の接近時に、气象台との合同説明会を実施し、警戒レベルの説明や防災情報の取得について周知。
- ・実証実験中のワンコイン浸水センサを町と連携し、設置。
- ・河道の維持管理として樹木伐採・河道掘削を実施。（内水被害軽減への取組）

【宮崎地方气象台】

- ・線状降水帯の発生情報である「顕著な大雨に関する気象情報」について、危機感を少しでも早く伝えるため、雨量等の解析技術を活用し、令和5年度の取組として最大30分程度前倒して発表する改善を実施した。また令和6年度の取組として、「大雨に関する気象情報」等、線状降水帯の可能性に言及する予測情報を、地方予報区単位（九州南部など）から府県単位（宮崎県）に絞り込む改善を行う。

議事概要

○ 流域治水の令和4年度における具体的な取組内容の共有（代表事例報告）

【宮崎県】

- ・ 地域防災の核となる防災士の養成研修を実施。また、自主防災組織・自治会・学校・企業に防災士を講師として派遣する出前講座を実施。
- ・ 宮崎県防災の日（5月第4日曜日）に防災の日フェアを開催。防災週間（8月30日～9月5日）には、テレビ、SNS広告等で避難情報の通知、避難場所・避難のタイミング、備蓄・非常持出品について啓発活動を実施。
- ・ 多数の組織から異なる形式で発信される様々な情報を、集約・加工・変換して提供する基盤防災流通ネットワークである、宮崎県防災情報共有システム（SIP4D利活用システム）による情報の提供。
- ・ 毎年6月の土砂災害防止月間を中心に、小中学生を対象とした「土砂災害防止教室」、地区住民を対象とした「土砂災害防止講座」を開催。
- ・ 洪水予報河川・水位周知河川以外の小規模河川においても、浸水想定図を作成し、水害リスク情報空白域を解消。作成した洪水浸水想定区域図を市町に提供することで、ハザードマップ作成に活用。

【高鍋町】

- ・ 防災士を育成するために、防災士養成研修の際に必要な個人負担補助を実施。また、防災士取得以降のフォローアップや高鍋町の防災に関する知識の普及などを継続的に行っていくために、町内の防災士を対象に、出水期前に防災士フォローアップ研修を実施。
- ・ 自主防災組織の育成及び活性化促進のため、防災資機材整備に要する経費への補助金を1団体に交付。
- ・ 津波浸水区域や土砂災害警戒区域に指定され、かつ防災行政無線放送の屋外拡声子局からの放送が聴こえにくい状況にある地域の世帯に対し、戸別受信機を無償で貸与。

【木城町】

- ・ 避難所までの経路及び所要時間等の確認を目的に、指定避難所となっている「みどりの杜木城学園」への住民避難訓練を実施。
- ・ 町民の防災意識の向上を図ることを目的として、防災に関する出前講座を開催。
- ・ 内水氾濫による浸水状況の早期に把握することを目的に、国土交通省の実証実験に参加し、国土交通省と連携しながら町内2ヶ所にワンコイン浸水センサを設置。

【川南町】

- ・ 消防団の魅力を発信し、若者の入団促進に繋げるため、消防団の年間活動の体験動画を作成し、Youtubeで配信。消防団の活動や動画を紹介するチラシを前期、後期活動分で作成し、町内全世帯（約6,200世帯）に配布。
- ・ 防災ハザードマップの更新・配布。

議事概要

○令和6年度自分事化に向けた取組計画

【宮崎河川国道事務所】

- ・「①知る機会を増やす」ことを目的にメディアと防災気象情報について勉強会を実施したり、防災訓練を実施する計画としている。「②自分事と捉える事を促す」ことを目的に教育活動として出前講座等を実施している。リスク情報の提供としても水防情報図の自治体への配布、浸水想定区域図の作成を実施している。「③行動を誘発する」ことを目的に水防活動の支援、防災士の育成等を実施している。今年度も引き続き取り組みを行っていく。

【宮崎県】

- ・「②自分事と捉えることを促す」ことを目的に、防災士養成研修の実施やリスク情報等の提供として洪水浸水想定区域図の作成に取り組んでおり、昨年度から継続して今年度も実施していく。

○杉尾アドバイザー（宮崎大学名誉教授）より

- ・住宅の屋根に降った雨は側溝へ、側溝から雨水排水路、雨水排水路から小川、小川から大河川・海へと流れるが、公共事業としての治水対策は排水路に出てきた部分からしか整備ができない。しかし、大型の雨水貯留施設を設置することは費用及び計画年数を要することから進まないものである。そこで重要なのは住宅の屋根に降った雨をどうするかということ。雨水貯留タンク1つに溜まる能力は非常に小さいが、これを数多くの住宅に設置すればダム治水能力に相当する流出抑制効果につながる。各自自治体においても設置促進の検討を進めていただきたい。
- ・グリーンインフラの取組みとして、道路排水等、下流に早く流すという昔の考えではなく、「雨庭」という砂利槽に溜めて、浸み染み込ませ、ゆっくり流すという流域治水の方法を宮崎でも取り組んでもらいたい。